

2015年3月期 第2四半期決算報告

2014/11/14

第一生命保険株式会社

一生涯のパートナー

第一生命

- 第一生命保険の稲垣です。
本日は、第一生命グループの2015年3月期第2四半期の決算報告にご参加いただきまして、ありがとうございます。
- 早速ですが、いつものように、私から資料に沿って決算内容をご説明し、残りの時間を質疑応答とさせていただきます。
- 1ページをご覧ください。

- 成長分野の保険販売の好調が続き、増収。第一生命の順ざや・キャピタル損益の改善や、第一フロンティア生命の収支改善により、増益
- 第2四半期累計の好調な営業業績・資産運用収支を踏まえ、連結の通期業績予想を上方修正
- 2014年9月末のグループ・エンベディッド・バリューは、5兆円を突破

- 今回の決算のポイントを以下の3点にまとめました。
- 第一に、成長分野の保険販売が好調に推移したことで、連結経常収益は高い伸びとなりました。また、第一生命の順ざや・キャピタル損益の改善や、第一フロンティア生命の収支改善により、連結経常利益・連結純利益も大幅に増加しました。
- 第二に、第一フロンティア生命における好調な販売実績を踏まえ、通期の保険料等収入の増加が見込まれることや、第一生命において良好な金融経済環境に伴う資産運用収益の増加を見込むことから、連結経常収益及び連結経常利益の通期予想を上方修正しました。
- 第三に、2014年9月末のグループ・エンベディッド・バリューは、好調な保険販売と良好な金融環境を背景に、グループ各社ともにEVが増加し、約5.1兆円となりました。
- 次に2ページをご覧ください。

- 好調な銀行窓販と、資産運用収支の改善が業績を牽引し、連結経常収益・連結経常利益・連結純利益ともに大幅増加を達成
- 連結経常収益、連結経常利益の通期予想を上方修正

(億円)

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計 (a)	前年同期比	
連結経常収益	29,752	34,627	+4,875	+16%
第一生命単体	22,082	22,568	+485	+2%
連結経常利益	1,560	2,343	+782	+50%
第一生命単体	1,718	2,240	+522	+30%
連結純利益	479	1,233	+754	+157%
第一生命単体	640	1,167	+527	+82%

<参考>

	2014/8/8 発表予想	2014/11/14 発表予想(b)	進捗率(a/b)
連結経常収益	56,070	64,090	54%
第一生命単体	40,740	44,000	51%
連結経常利益	2,460	3,180	74%
第一生命単体	2,390	3,100	72%
連結純利益	800	800	154%
第一生命単体	790	790	148%

- 業績ハイライトをお示ししています。
- 連結経常収益は前年同期比16%増の3兆4,627億円、連結経常利益は同50%増の2,343億円、連結純利益は同157%増の1,233億円と、大幅な増収・増益となりました。
- この後詳しく説明しますが、連結経常収益、連結経常利益の通期予想を上方修正しました。
- 次に3ページをご覧ください。

■ 保険販売好調と、資産運用収支の改善が業績に貢献

連結損益計算書(要約)⁽¹⁾

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減
経常収益	29,752	34,627	+4,875
保険料等収入	21,188	25,869	+4,681
資産運用収益	6,826	7,120	+293
うち利息・配当金等収入	3,756	4,105	+348
うち有価証券売却益	1,444	1,111	△333
うち特別勘定資産運用益	1,381	1,700	+319
その他経常収益	1,737	1,637	△99
経常費用	28,191	32,284	+4,092
うち保険金等支払金	14,163	15,689	+1,525
うち責任準備金等繰入額	7,876	11,097	+3,220
うち資産運用費用	1,345	579	△765
うち有価証券売却損	392	55	△337
うち有価証券評価損	12	5	△6
うち金融派生商品費用	239	45	△194
うち事業費	2,551	2,812	+260
経常利益	1,560	2,343	+782
特別利益	17	7	△10
特別損失	272	128	△144
契約者配当準備金繰入額	402	464	+61
税金等調整前純利益	903	1,758	+854
法人税等合計	442	524	+81
少数株主利益(△は損失)	△18	0	+18
純利益	479	1,233	+754

連結貸借対照表(要約)

	14/3末	14/9末	増減
資産の部合計	377,051	399,348	+22,296
うち現預金・コール	10,613	11,761	+1,147
うち買入金銭債権	2,818	2,750	△67
うち有価証券	312,035	332,156	+20,121
うち貸付金	30,247	30,535	+288
うち有形固定資産	12,158	12,045	△113
うち繰延税金資産	57	15	△42
負債の部合計	357,575	371,945	+14,369
うち保険契約準備金	333,275	344,195	+10,920
うち責任準備金	325,749	336,742	+10,993
うち退職給付に係る負債	3,854	3,720	△133
うち価格変動準備金	1,181	1,259	+78
うち繰延税金負債	151	1,794	+1,643
純資産の部合計	19,476	27,403	+7,927
うち株主資本合計	6,285	10,100	+3,815
うちその他の包括利益累計額合計	13,184	17,294	+4,110
うちその他有価証券評価差額金	13,227	17,167	+3,940
うち土地再評価差額金	△383	△385	△2

(1) 特別勘定資産運用損(益)は、責任準備金の戻入れ(繰入れ)で相殺されるため、経常利益には影響するものではありません

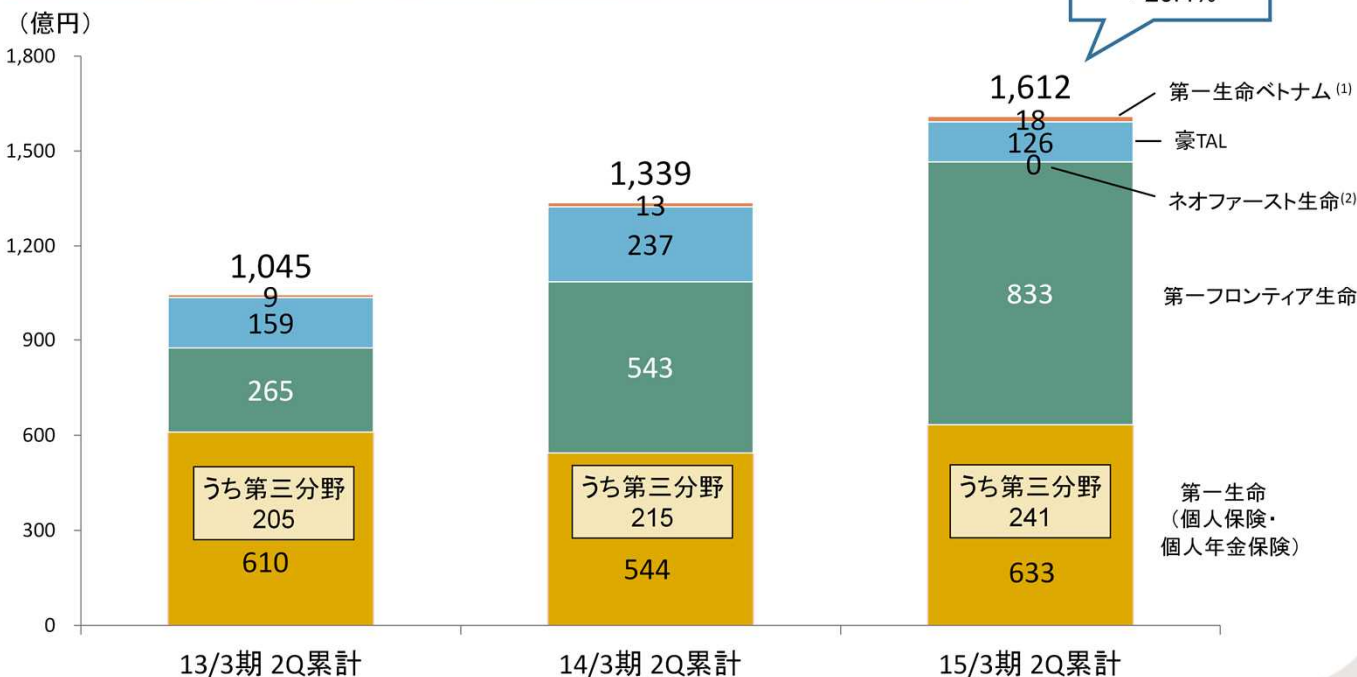
- 連結主要収支の詳細をご説明します。
- 経常収益の増加は保険料等収入が前年同期比約4,700億円増加したことが主な要因です。第一フロンティア生命の保険料等収入が同約3,600億円増加したほか、第一生命単体の保険料等収入も同約700億円増加しました。
- 経常費用項目では、保険金等支払金が同約1,500億円増加しておりますが、これは主に第一生命の団体年金において一部契約が解約となったためです。責任準備金等繰入額の同約3,200億円の増加は、第一フロンティア生命を筆頭に貯蓄性商品の保険販売が増加したことによります。資産運用費用は、有価証券売却損が減少したことなどで同約800億円の減少となりました。以上のことから、経常利益・純利益は大幅に増加しました。
- 次に4ページをご覧ください。

	【第一生命】 (億円)			【第一フロンティア生命】 (億円)			【豪TAL】 ⁽¹⁾ (百万豪ドル)			【連結】 (億円)		
	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	前年 同期比	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	前年 同期比	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	前年 同期比	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	前年 同期比
経常収益	22,082	22,568	+2%	6,578	10,779	+64%	1,372	1,585	+16%	29,752	34,627	+16%
保険料等収入	14,274	14,954	+5%	5,957	9,558	+60%	1,102	1,382	+25%	21,188	25,869	+22%
資産運用収益	6,150	5,888	△4%	621	1,220	+96%	158	99	△37%	6,826	7,120	+4%
経常費用	20,364	20,327	△0%	6,759	10,737	+59%	1,323	1,489	+13%	28,191	32,284	+15%
保険金等支払金	11,821	12,745	+8%	1,731	2,077	+20%	748	916	+22%	14,163	15,689	+11%
責任準備金等繰入額	3,252	3,018	△7%	4,454	8,097	+82%	251	211	△16%	7,876	11,097	+41%
資産運用費用	1,058	585	△45%	330	31	△90%	16	18	+13%	1,345	579	△57%
事業費	2,065	2,006	△3%	221	476	+115%	264	287	+9%	2,551	2,812	+10%
経常利益(△は損失)	1,718	2,240	+30%	△ 181	41	--	49	96	+96%	1,560	2,343	+50%
特別利益	17	4	△73%	--	--	--	--	--	--	17	7	△58%
特別損失	269	120	△55%	2	7	+180%	--	--	--	272	128	△53%
少数株主利益(△は損失)	--	--	--	--	--	--	--	--	--	△ 18	0	--
純利益(△は損失)	640	1,167	+82%	△ 183	27	--	29	71	+141%	479	1,233	+157%

(1) 豪TALの数値は、オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております

- グループ各社の決算についてコメントします。
- 第一生命単体の保険料等収入は、一時払終身保険の販売好調により、前年同期比5%増となりました。また、資産運用収益が良好な一方で資産運用費用が大幅に減少したことを主な要因として純利益は同82%増となりました。
- 第一フロンティア生命の貯蓄性商品の販売は第1四半期の好調がさらに加速し、当第2四半期累計の保険料等収入は同60%増の9,558億円となりました。これに伴い、責任準備金等繰入額も増加したものの、前年同期の純損失から反転し、純利益27億円を計上しました。これは、保有契約の増加を背景に同社の基礎的収益力が高まる中、相場の安定的な推移に伴う最低保証関連収支の改善などが寄与したものです。
- オーストラリアのTAL社の保険料等収入は、現地通貨建てで同25%増となりました。保険金等の請求が全体として落ち着きを見せたことや、金利低下による利益の押上げ効果により、純利益は同141%増と、大幅増益となりました。
- 次に5ページをご覧ください。

第一生命グループの新契約年換算保険料

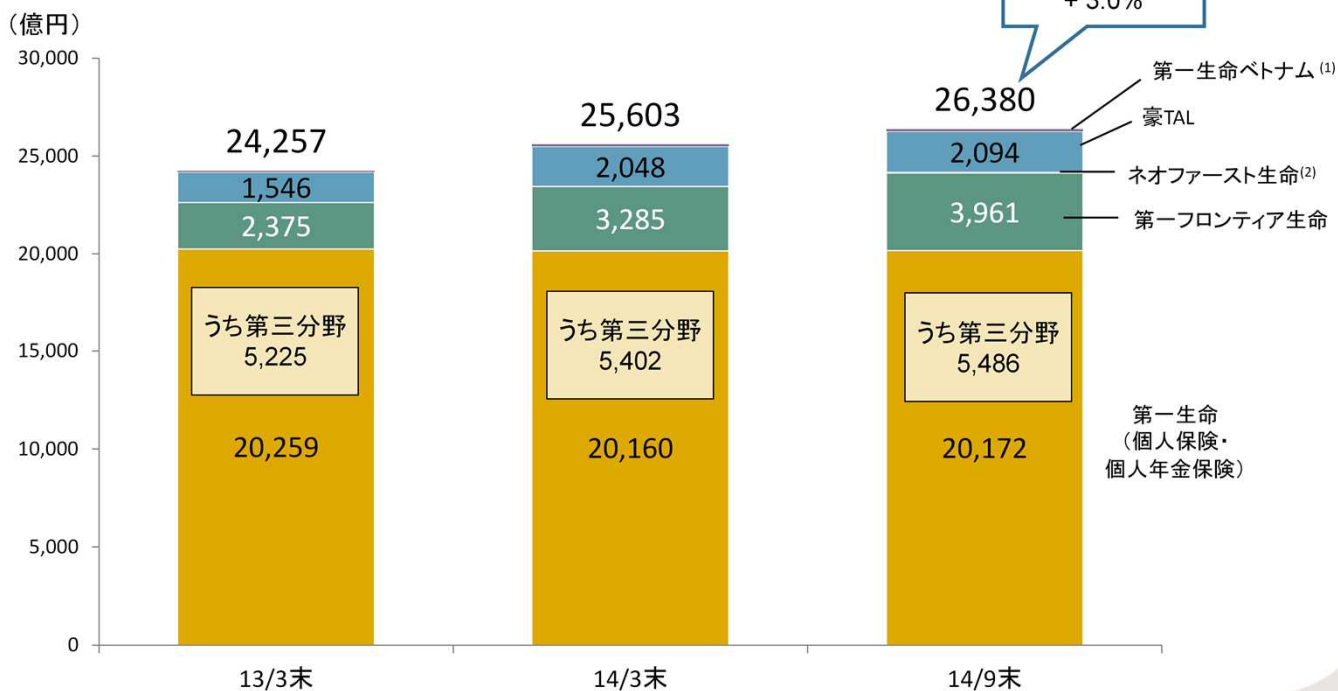


(1) 第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。

(2) 関係当局による認可等を条件として、2014年11月25日に損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命からネオファースト生命へ商号変更(社名変更)を行う予定です。尚、ネオファースト生命の実績は、15/3期2Q(7-9月)のみを記載しています。

- 新契約の動向についてご説明します。
- グラフは第一生命グループの新契約を年換算保険料で示しており、以下は全て年換算保険料ベースで説明しています。なお、今回より、ネオファースト生命(スライドの脚注を参照下さい)を含めてお示ししています。
- 第一生命単体の新契約は前年同期比16.4%の増加となりました。これは、昨年度の料率改定に伴う販売減からの回復に加えて、相続マーケットの取込みを目的とした貯蓄性商品の販売増加によるものです。成長分野である第三分野の販売も好調に推移し、同11.6%の増加となりました。
- 第一フロンティア生命の新契約は同53.3%増と好調を維持しています。詳細は12ページで説明します。
- TALの新契約は現地通貨建てで同49.2%減、円建てで同46.8%減となりました。詳細は13ページで説明します。
- 第一生命ベトナムの新契約は現地通貨建てで同32.7%増、円建てで同35.6%増となりました。
- グループ全体の契約は同20.4%増と、大幅に増加しました。
- 次に6ページをご覧ください。

第一生命グループの保有契約年換算保険料

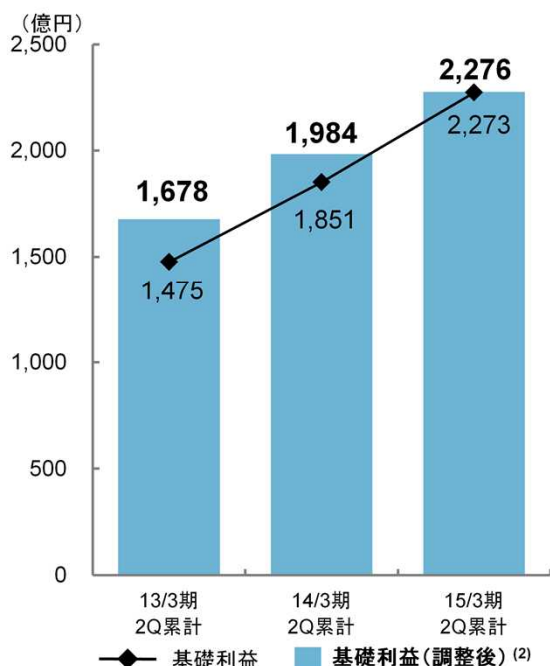


(1) 第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。13/3末、14/3末、14/9末の第一生命ベトナムの保有契約年換算保険料はそれぞれ75億円、108億円、114億円です。

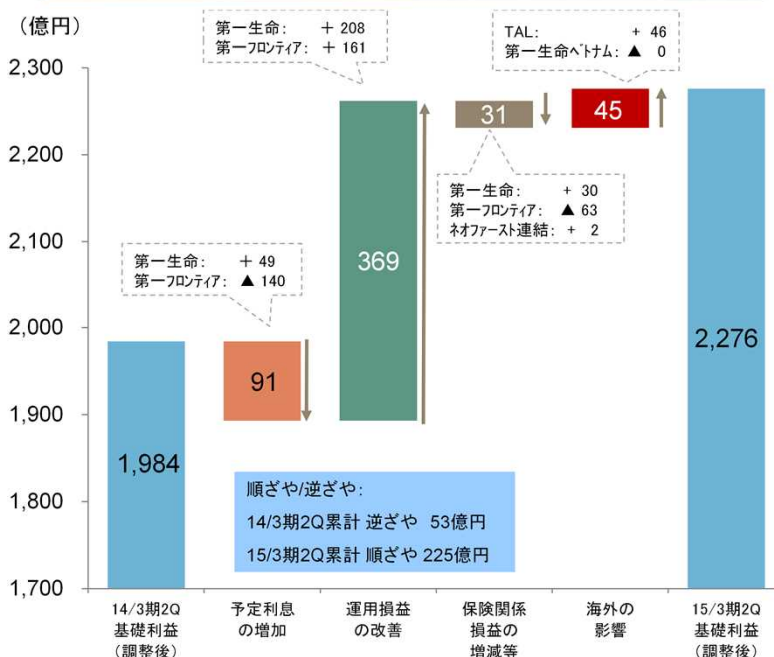
(2) 14/9末のネオファースト生命の保有契約年換算保険料は37億円(うち第三分野は9億円)です。尚、ネオファースト生命の実績は、14/9末のみを記載しています。

- 保有契約の動向についてご説明します。こちらも年換算保険料ベースで説明しています。
- 第一生命単体の保有契約は前期末比0.1%増となりました。うち、第三分野の保有契約は同1.5%増でした。第一フロンティア生命では同20.6%増、TALでは現地通貨建て、円建て共に同2.2%増となりました。第一生命ベトナムも堅調に保有契約を積み上げました。
- その結果、グループ全体の保有契約は同3.0%増と着実な成長を遂げました。
- 次に7ページをご覧ください。

基礎利益 (1)



基礎利益(調整後)の変動要因 (1)(2)



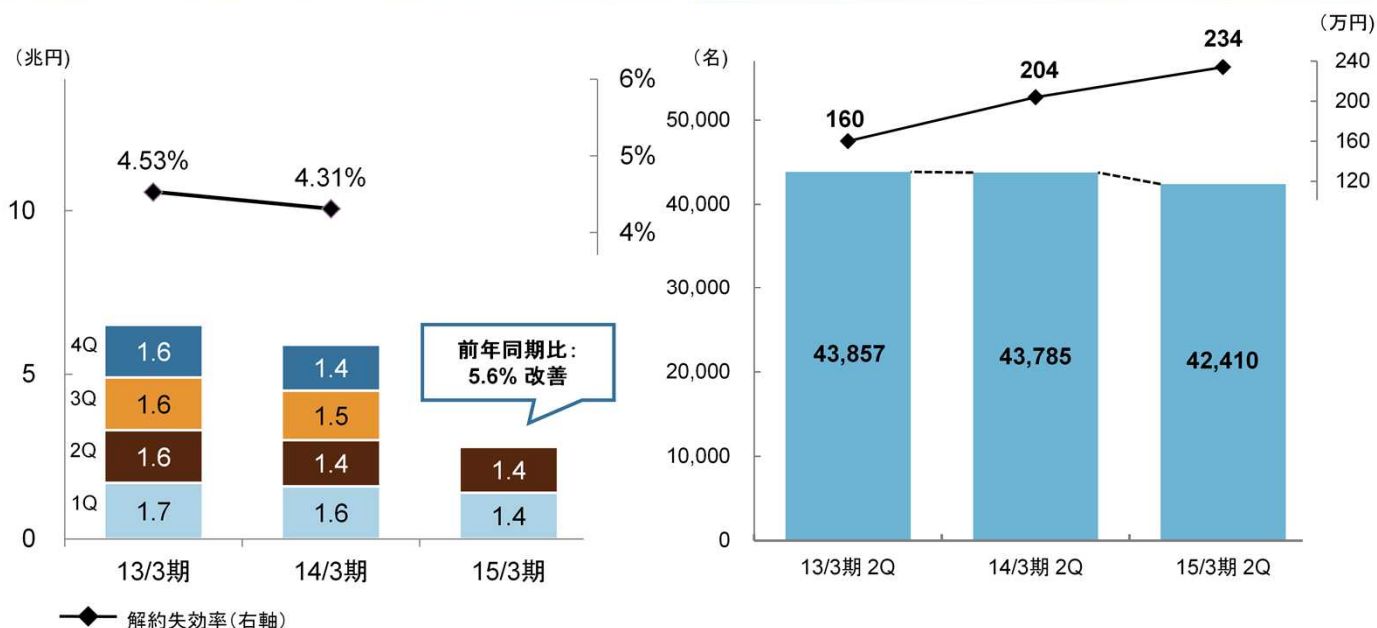
(1) 第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命(15/3期2Qのみ)の基礎利益、TALの修正利益(税引前換算)、第一生命ベトナムの税引前利益を合算し、第一生命グループ内の内部取引の一部を相殺。

(2) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 ± 変額保険の最低保証リスクに係る責任準備金繰入(戻入)額

- 第一生命グループの基礎利益についてご説明します。従来は、第一生命・第一フロンティア生命の合算値をお示していましたが、今回より、ネオファースト生命、TAL、第一生命ベトナムも含めています。詳細は脚注をご覧ください。
- 基礎利益には、変額保険の最低保証に係る責任準備金の繰入れ・戻入れが変動要因として影響します。この影響を除いた調整後の基礎利益は左の棒グラフの通り、前年同期の1,984億円から2,276億円へ高い伸びを見せました。
- 第一生命単体では、追加責任準備金繰入れなどの効果により予定利息が減少しましたが、第一フロンティア生命では、外貨建商品の販売増を背景に予定利息が増加しました。一方で、運用損益は、第一生命、第一フロンティア生命ともに改善したため、225億円の順ざやと、前年同期の53億円の逆ざやから大きく改善しました。
- 第一フロンティア生命の保険関係損益は、外国金利低下に伴う外貨建商品の責任準備金繰入負担の増加等、会計的影響もあって減少しました。TALの修正利益は、税引前換算で46億円の改善となりました。
- 次に8ページをご覧ください。

解約失効高(個人保険・個人年金)

営業職員数および生産性 (1)(2)

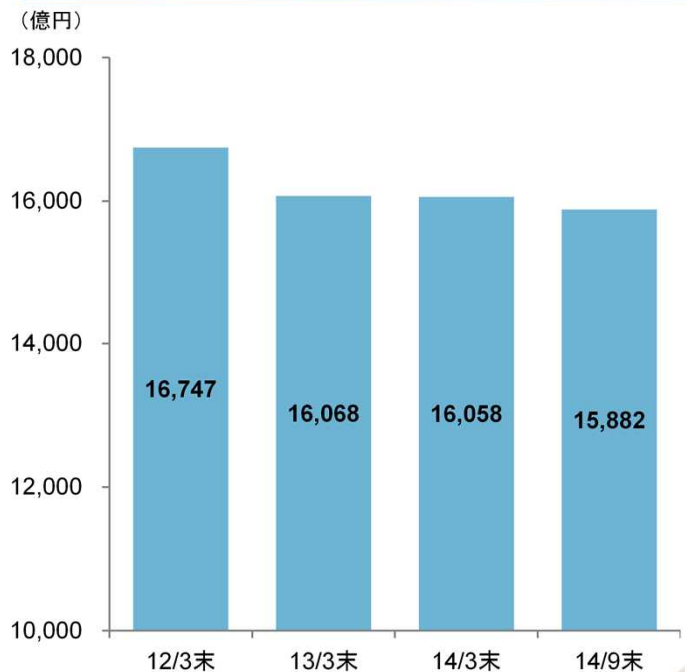
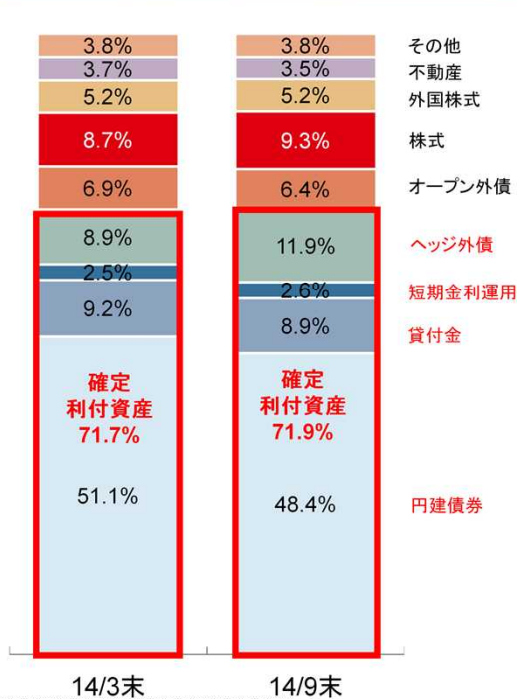


(1) 営業職員については、第一生命と委任契約を締結かつ生命保険募集人登録をしている者のうち、その他補助的業務に従事する者を除いております。
 (2) 各期間における新契約価値を分子、各期間の営業職員数(補助的業務に従事する者を除く)の平均値を分母として計算しています。

- 左のグラフは第一生命単体の解約失効高ならびに解約失効率の状況を示しています。営業職員チャネルにおける適切なコンサルティングやお客さまフォローにより、解約失効高は前年同期比5.6%減と改善を続けています。
- 右のグラフは営業職員数と営業職員一人あたり新契約価値の推移を示しています。第2四半期と本決算ではEVレポートを発行しますので、新契約価値で営業の効率性をご説明します。営業職員数は微減となりましたが、営業職員一人あたりEV新契約価値は、新契約価値が増加したため、前年同期比で増加しています。営業職員一人あたり新契約件数は参考資料に掲載していますが、料率改定により販売が減少した前年度第1四半期からの回復を主な要因として、前年同期比で増加しています。
- 次に9ページをご覧ください。

資産の構成(一般勘定) (1)

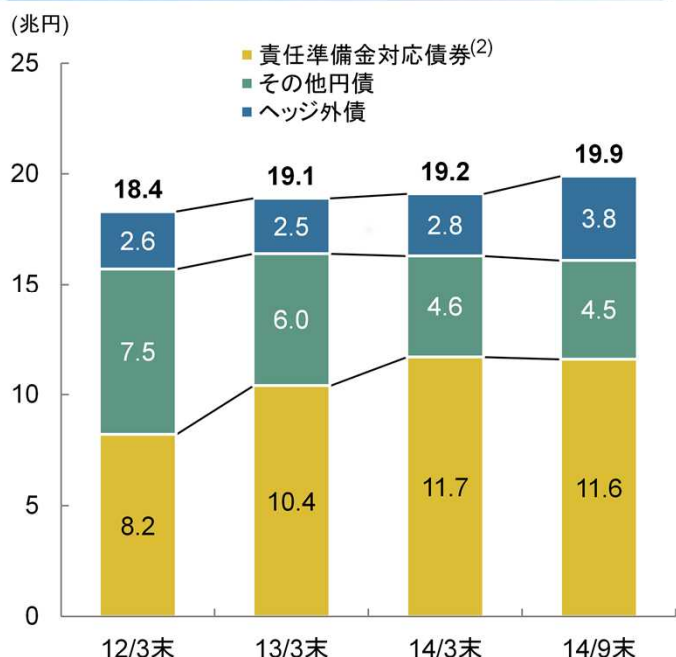
国内株式の簿価 (2)



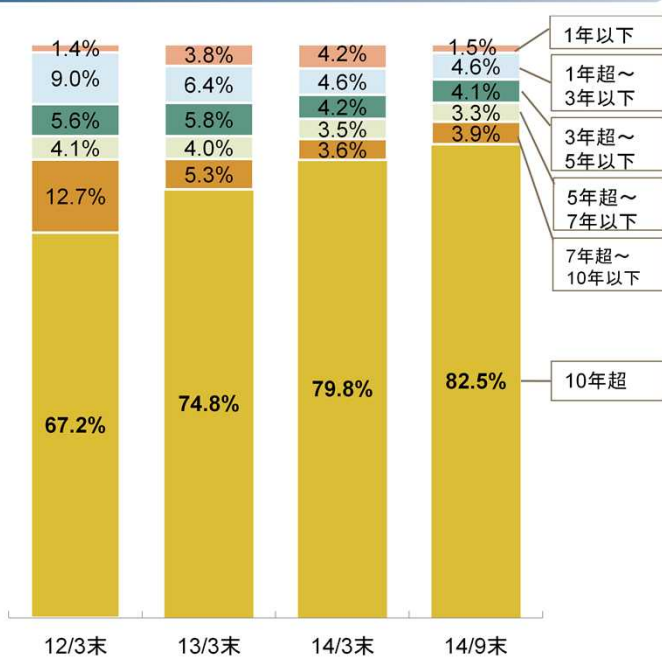
(1) 貸借対照表価額ベース
 (2) 国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)

- 資産運用の状況についてご説明します。
- 左のグラフは第一生命の一般勘定資産の構成比を示しています。引き続き、ALMと厳格なリスク管理の考え方に基づいて、円建債券など確定利付資産中心の運用を行っています。当第2四半期累計は、国内で低金利が継続したことを踏まえ、ヘッジ外債への配分を増やしました。
- 国内株式の保有比率は、時価の変動を主な要因として、前期末の8.7%から9.3%へ上昇しました。右のグラフで示した国内株式の簿価残高は、前期末比で減少しています。国内株式の売却を進めて行く基本方針に変更はありません。
- 次に10ページをご覧ください。

債券の積み増し状況 (1)



国内債券の残存期間 (3)



(1) 一般勘定資産のうち円建債券とヘッジ外債を対象とする。簿価ベース

(2) 責任準備金対応債券とは、保険会社だけに認められた区分で、一定の要件を満たせば償却原価法による評価が認められている。

(3) 一般勘定資産のうち国内債券を対象とする。貸借対照表価額ベース

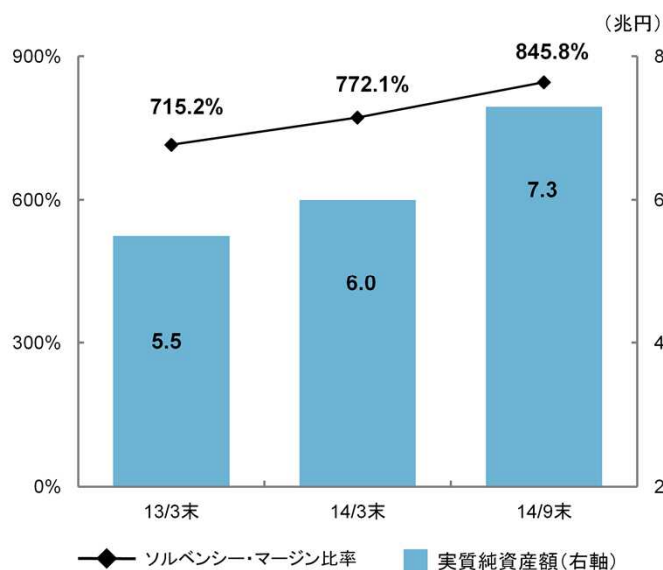
- デュレーションの長期化についてご説明します。
- 左のグラフは円建の確定利付資産のうち、円建債券とヘッジ外債の簿価残高を示しています。円建債券については、低金利環境を踏まえて買入れの抑制を継続した一方、ヘッジ外債の残高を積み増しました。
- また、右のグラフは、国内債券の残存期間を示しています。残存期間の短い債券の償還があったため構成比が変化しましたが、デュレーションの長期化に向けた超長期債券の買入れは、低金利環境を踏まえて抑制しました。
- 次に11ページをご覧ください。

含み損益(一般勘定)

(億円)

	14/3末	14/9末	増減
有価証券	30,056	38,560	+8,503
国内債券	13,813	16,893	+3,080
国内株式	9,318	12,502	+3,184
外国証券	6,422	8,676	+2,254
不動産	482	501	+19
その他共計	30,505	39,328	+8,823

ソルベンシー・マージン比率
および実質純資産額

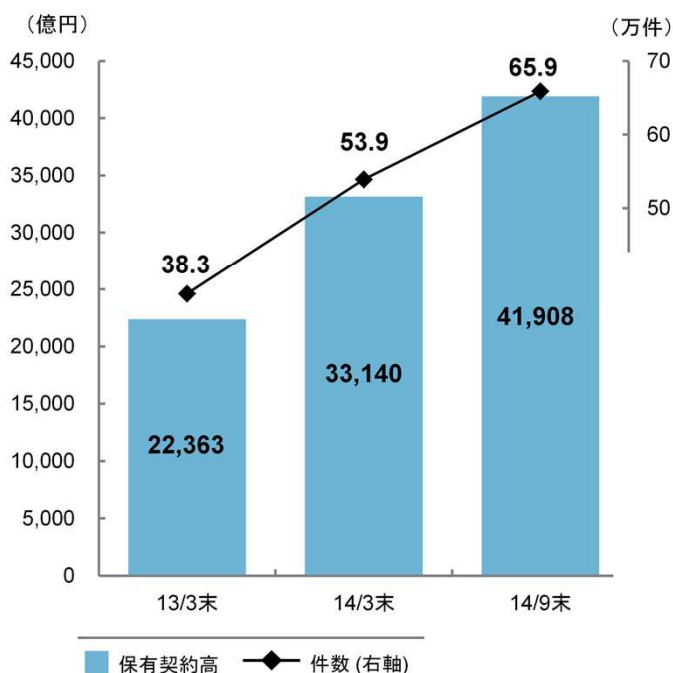


<参考> 連結ソルベンシー・マージン比率:

2014年9月末 834.4 %

- 第一生命単体の健全性についてご説明します。
- 左の表では一般勘定各資産の含み益の変化を示しています。前期末と比較すると、内外の金利低下と株価上昇により有価証券の含み益が増加し、一般勘定資産全体で含み益は約8,800億円増加しました。
- 右の折れ線グラフで示したソルベンシー・マージン比率は、普通株式増資や利益の積み上がりなどで中核的支払余力が充実したことや、有価証券含み益が増加したことで、前期末に比べ73.7ポイント上昇し、845.8%となりました。
- 次に12ページをご覧ください。

保有契約高



収支の状況

	(億円)	
	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計
経常収益	6,578	10,779
うち保険料等収入	5,957	9,558
うち変額商品	1,819	967
うち円建定額商品	1,866	1,487
うち外貨建定額商品	1,689	6,226
うち資産運用収益	621	1,220
うち最低保証リスクに対するヘッジ利益(A)	-	-
経常費用	6,759	10,737
うち責任準備金等繰入額	4,454	8,097
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(△は戻入)(B)	143	7
うち市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入額(△は戻入)(C)	△ 13	95
うち危険準備金繰入額(D)	94	86
うち資産運用費用	330	31
うち最低保証リスクに対するヘッジ損失(E)	124	18
経常利益(△は損失)	△ 181	41
純利益(△は損失)	△ 183	27
純利益 - (A) + (B) + (C) + (D) + (E)	164	236

- 第一フロンティア生命の状況についてご説明します。
- 第2四半期に入り、外貨建商品の販売が加速したことで、当第2四半期累計の保険料等収入は9,558億円になりました。保有契約高も4兆円を突破しました。
- 経常費用項目では、販売増に伴い、責任準備金等繰入額が増加していますが、内外の金融環境が相対的に安定していたため、変額年金の最低保証に係る責任準備金の繰入負担は限定的でした。外国金利の低下に伴い、外貨建商品の市場価格調整に係る責任準備金の繰入負担は増加したものの、収支は前年同期比で大幅に改善し、純利益27億円を計上しました。
- また、参考として表の下段に、最低保証に係る責任準備金繰入額やヘッジ損益等、市場変動要因を除く基礎的収益力といえる数値を記載しています。基礎的収益力は保有契約の積み上がりを背景に増加しました。
- 次に13ページをご覧ください。

主要業績

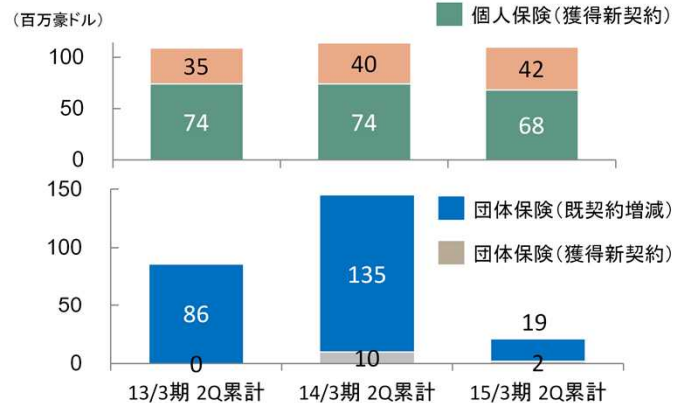
(百万豪ドル)			
	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	前年 同期比
経常収益 (2)	1,372	1,585	+16%
うち保険料等収入 (2)	1,102	1,382	+25%
経常利益 (2)	49	96	+96%
純利益(A) (2)	29	71	+141%
修正額(B)	16	7	
うち負債割引率の変化	3	△ 9	
うち償却負担	10	10	
その他	3	5	
修正利益=(A)+(B) (Underlying profit)	46	78	+69%

<参考>

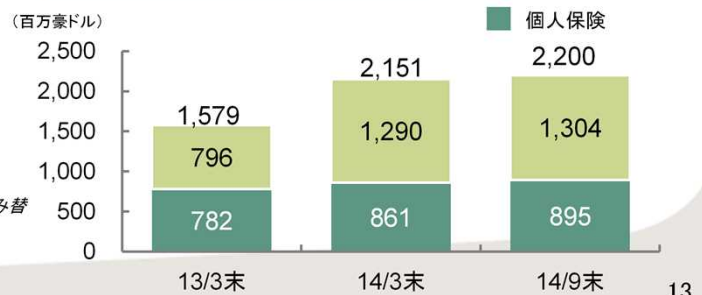
	13/9末	14/9末
為替レート(豪ドル)	90.87円	95.19円

(1) 連結対象の豪持株会社 (TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd) に係る数値
 (2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております(修正額及び修正利益を除く)

新契約年換算保険料



保有契約年換算保険料



- TALの状況についてご説明します。
- 右上の、豪ドル建ての新契約年換算保険料は、個人保険で前年同期比4%減となりました。団体保険では、新契約を獲得したものの前年度第1四半期に実施した料率改定の効果が剥落したことから大幅減となりました。その結果、TAL全体の**新契約年換算保険料は同49%減**となりました。ただし、第2四半期単独での新契約は前年同期比でほぼ横ばいでした。
- 一方、保有契約年換算保険料は着実に積み上がっており、これを背景に保険料等収入は**前年同期比25%増**となりました。純利益は、前年度の料率改定の効果に加え、保険金等の請求が落ち着きを見せたことや、金利変動を背景とする会計的影響により、**同141%増**でした。
- 金利の上昇は国際会計基準を採用するTALのバランスシート構造上、利益を押し下げる要因になります。前年同期は金利が上昇していたため、純利益を約**3百万豪ドル**押し下げていましたが、当第2四半期累計は市場金利が下落に転じ、純利益を約**9百万豪ドル**押し上げています。これにより会計上の純利益は**前年同期比約12百万豪ドル**増加しました。
- こうした金利変動による影響等を除いても、修正利益は**同69%増**となりました。
- 次に14ページをご覧ください。

- 経常収益・経常利益の通期予想を上方修正
- 純利益は、法人税減税の影響を見極める必要があるため、業績予想を据え置き

	(億円)			(参考)
	14/3期	15/3期(予) ※2014/11/14 発表予想	増減	15/3期(予) ※2014/8/8 発表予想
経常収益	60,449	64,090	+ 3,640	56,070
第一生命単体	43,846	44,000	+ 153	40,740
第一フロンティア	14,178	17,370	+ 3,191	12,290
TAL (百万豪ドル)	2,849	3,440	+ 590	3,440
経常利益	3,047	3,180	+ 132	2,460
第一生命単体	3,076	3,100	+ 23	2,390
第一フロンティア	△ 158	△ 30	+ 128	△ 40
TAL (百万豪ドル)	139	130	△ 9	130
当期純利益	779	800	+ 20	800
第一生命単体	855	790	△ 65	790
第一フロンティア ⁽¹⁾	△ 152	△ 60	+ 92	△ 60
TAL (百万豪ドル)	90	90	+ 0	90
1株当たり配当金	20円	25円	+5円	25円
(参考: 基礎利益)				
第一生命グループ	4,461	4,400程度	△ 61	-
第一生命単体	3,998	4,000程度	+ 1	3,400程度

(1) 持分考慮後(2014年3月期)

- 第一生命グループの2015年3月期業績予想についてご説明します。
- 冒頭でお示した通り、当第2四半期累計の業績は大幅増収増益となりました。
- 経常収益は、第一フロンティア生命における好調な保険販売により保険料等収入の増加を見込むことから、また、経常利益は、第一生命保険において良好な金融経済環境に伴う資産運用収益の増加を見込むことから、通期の業績予想を上方修正しました。
- 純利益も当第2四半期累計では高い水準となりましたが、現在検討が進められている法人税減税の決算への影響を見極める必要があることから、現時点では通期の業績予想を据え置きとします。
- 次に15ページをご覧ください。

- 好調な保険販売と良好な金融環境を背景に、グループ各社ともにEVが増加

第一生命グループのEEV

(億円)

	14/3末	14/9末	増減
EEV	42,947	51,554	+8,607
修正純資産	34,313	44,730	+10,416
保有契約価値	8,633	6,824	△1,808

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減	14/3期
新契約価値	1,049	1,371	+321	2,554

第一生命(単体)

(億円)

	14/3末	14/9末	増減
EEV	42,685	50,691	+8,005
修正純資産	35,209	45,405	+10,195
保有契約価値	7,476	5,286	△2,189

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減	14/3期
新契約価値	896	1,000	+103	2,169

第一フロンティア生命

(億円)

	14/3末	14/9末	増減
EEV	1,638	2,099	+461
修正純資産	1,344	1,479	+135
保有契約価値	293	619	+326

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減	14/3期
新契約価値	82	295	+213	223

15

- 2014年9月末のグループ・エンベディッド・バリューについてご説明します。本日時点では、まだ第三者意見を得ていないため、要約での開示となります。
- 2014年9月末のEVは修正純資産が4兆4,730億円、保有契約価値が6,824億円で、合計5兆1,554億円となりました。3月末に比べ8,607億円の増加となっています。
- 修正純資産は、有価証券の含み益の増加と、第一生命の増資による純資産の増加により、3月末比1兆416億円増加しました。
- 保有契約価値は、新契約によるプラス効果を、金利低下によるマイナス効果が上回り、1,808億円の減少となりました。
- 新契約価値は、国内生保事業での好調な保険販売により、前年同期比で321億円の増加となりました。
- 次に16ページをご覧ください。

TAL (億円)

	14/3末	14/9末	増減
EEV	1,863	2,074	+210
修正純資産	999	1,155	+155
保有契約価値	863	919	+55

<参考> TAL(豪ドルベース) (百万豪ドル)

	14/3末	14/9末	増減
EEV	1,957	2,179	+221
修正純資産	1,050	1,213	+163
保有契約価値	907	965	+57

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減	14/3期
新契約価値	78	75	△2	184

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減	14/3期
新契約価値	86	79	△7	193

14/3期2Q累計の新契約価値:
13/9末の為替レート(1豪ドル=90.87円)を使用

14/3末EEV・14/3期の新契約価値:
14/3末の為替レート(1豪ドル=95.19円)を使用

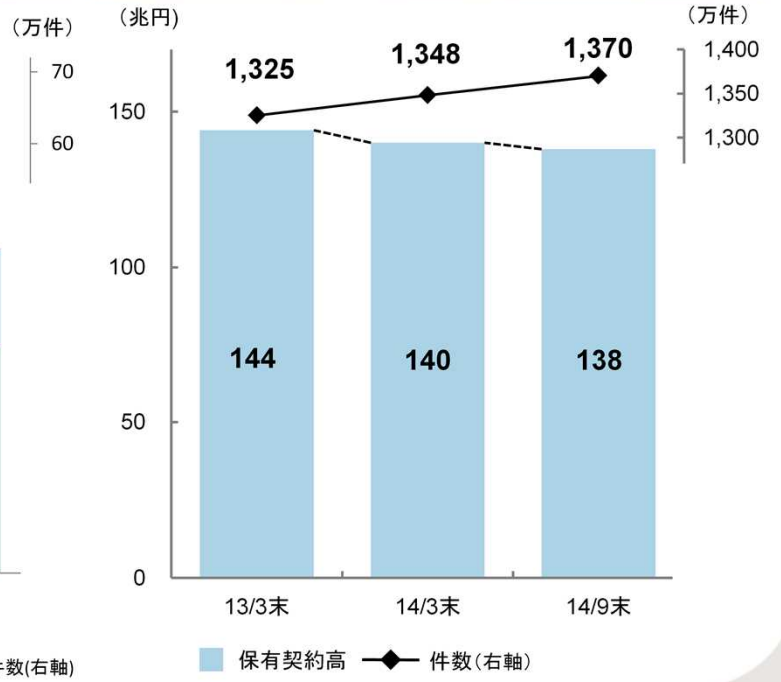
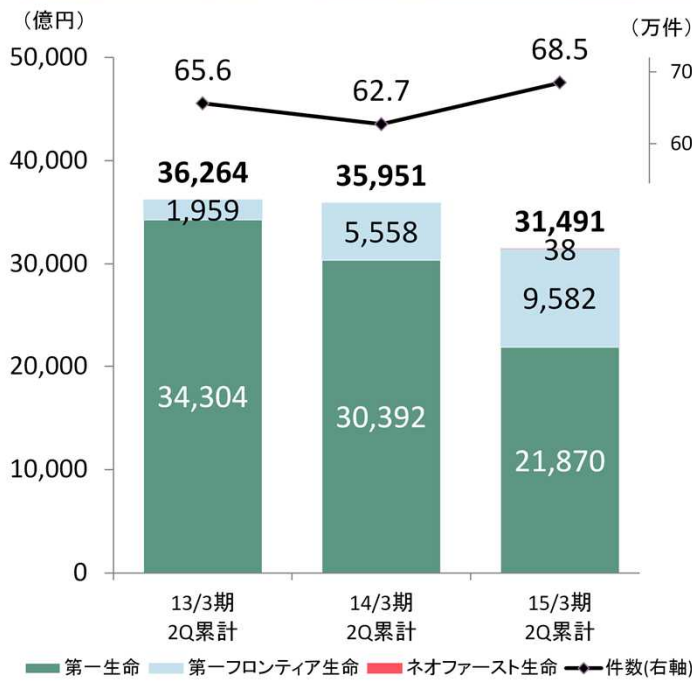
14/9末EEV・15/3期2Q累計の新契約価値:
14/9末の為替レート(1豪ドル=95.19円)を使用

- TALの2014年9月末EVは2,074億円でした。新契約の獲得等により現地通貨建てのEVが伸びたため、円換算でもグループEVへの貢献度が高まっています。
- 本日は第2四半期決算についてご説明しましたが、11月20日には社長の渡邊が中期経営計画の進捗等についてアップデートさせて頂く予定ですので、是非ご参加下さい。
- 以上で、私からの説明を終了させて頂きます。

参考データ

新契約高 (1)

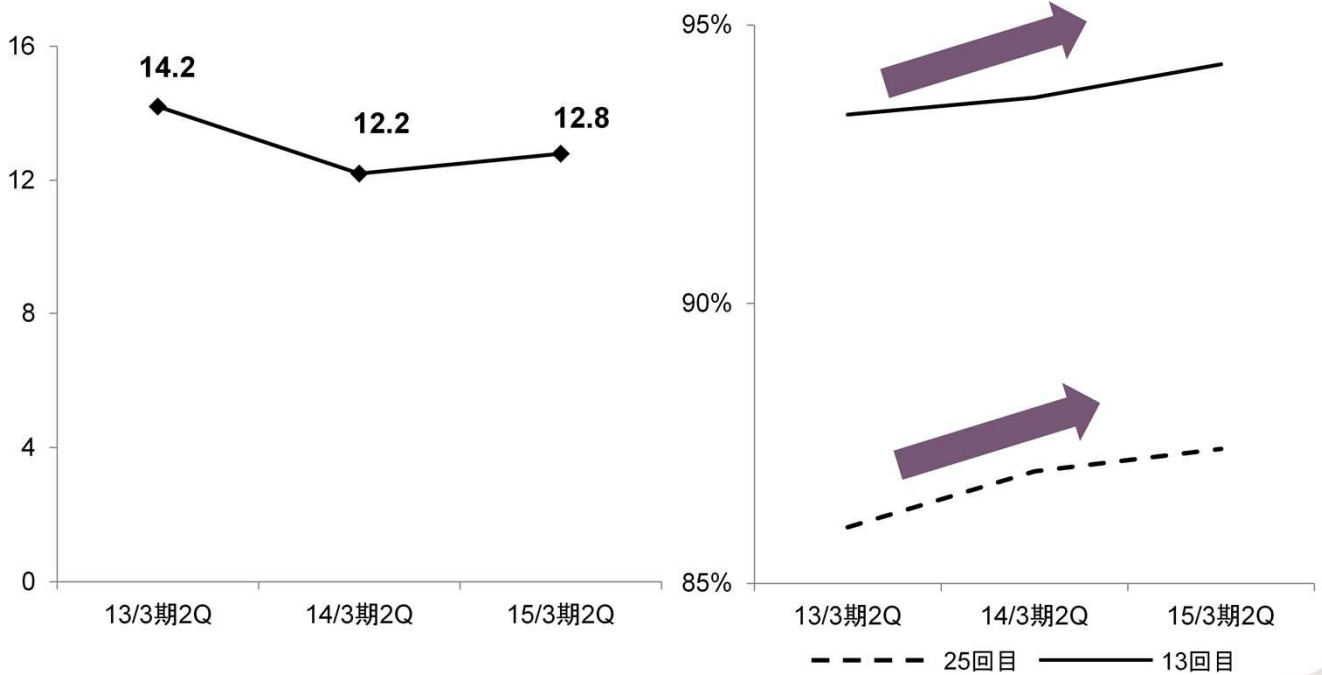
保有契約高 (1)



(1) 第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命の合算ベース。ネオファースト生命の新契約高は、15/3期2Q(7-9月)のみを記載し、保有契約高は14/9末のみを記載しています。

営業職員一人当たり新契約件数 ⁽¹⁾⁽²⁾

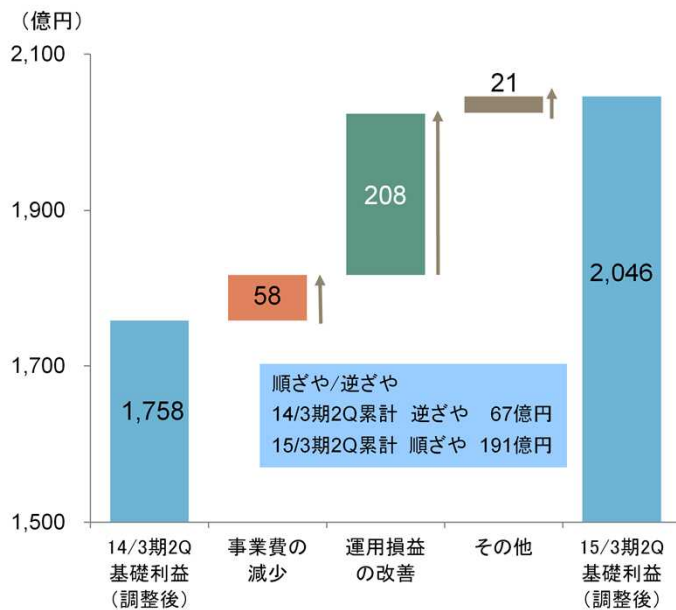
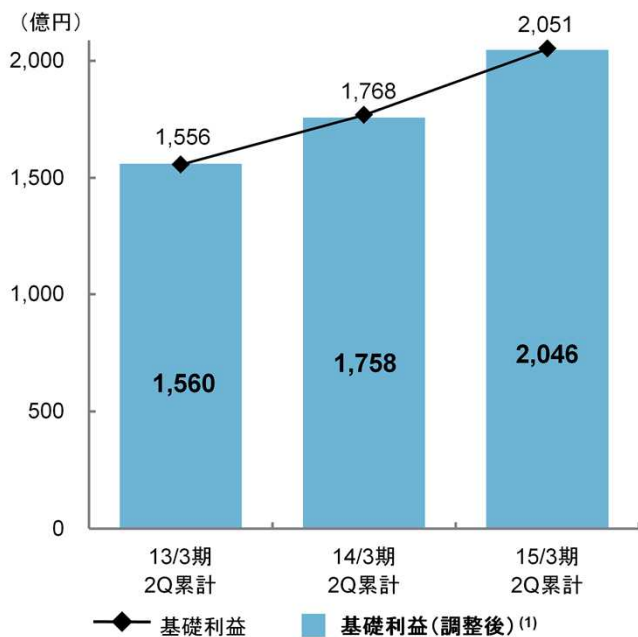
継続率



(1) 営業職員については、第一生命と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしている者のうち、その他補助的業務に従事する者を除いております。
 (2) 各期間における新契約件数(転換含む)を分子、各期間の営業職員数(補助的業務に従事する者を除く)の平均値を分母として計算しています。

基礎利益

基礎利益(調整後)の変動要因(1)



(1) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 ± 変額保険の最低保証リスクに係る責任準備金繰入(戻入)額

損益計算書⁽¹⁾

	(億円)		
	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減
経常収益	22,082	22,568	+485
保険料等収入	14,274	14,954	+680
資産運用収益	6,150	5,888	△261
うち利息・配当金等収入	3,698	3,885	+187
うち有価証券売却益	1,378	1,095	△282
うち特別勘定資産運用益	911	779	△132
その他経常収益	1,658	1,726	+67
経常費用	20,364	20,327	△36
うち保険金等支払金	11,821	12,745	+923
うち責任準備金等繰入額	3,252	3,018	△234
うち資産運用費用	1,058	585	△473
うち有価証券売却損	391	54	△336
うち有価証券評価損	12	5	△6
うち金融派生商品費用	187	29	△157
うち事業費	2,065	2,006	△58
経常利益	1,718	2,240	+522
特別利益	17	4	△12
特別損失	269	120	△149
契約者配当準備金繰入額	402	464	+61
税引前純利益	1,063	1,660	+596
法人税等合計	423	493	+69
純利益	640	1,167	+527

貸借対照表

	(億円)		
	14/3末	14/9末	増減
資産の部合計	340,288	353,814	+13,525
うち現預金・コール	9,084	9,812	+727
うち買入金銭債権	2,758	2,689	△68
うち有価証券	280,051	292,282	+12,230
うち貸付金	30,231	30,520	+288
うち有形固定資産	12,155	12,042	△113
うち繰延税金資産	111	-	△111
負債の部合計	320,569	326,298	+5,728
うち保険契約準備金	297,440	300,085	+2,645
うち責任準備金	291,992	294,966	+2,974
うち危険準備金	5,310	5,400	+90
うち退職給付引当金	4,071	3,938	△132
うち価格変動準備金	1,164	1,234	+70
うち繰延税金負債	-	1,542	+1,542
純資産の部合計	19,718	27,515	+7,797
うち株主資本合計	6,962	10,705	+3,742
うち評価・換算差額等合計	12,749	16,802	+4,053
うちその他有価証券評価差額金	13,158	17,006	+3,847
うち土地再評価差額金	△383	△385	△2

(1) 特別勘定資産運用損(益)は、責任準備金の戻入れ(繰入れ)で相殺されるため、経常利益に影響するものではありません

損益計算書

(億円)

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減
経常収益	6,578	10,779	+4,200
うち保険料等収入	5,957	9,558	+3,601
うち資産運用収益	621	1,220	+598
経常費用	6,759	10,737	+3,977
うち保険金等支払金	1,731	2,077	+345
うち責任準備金等繰入額	4,454	8,097	+3,643
うち資産運用費用	330	31	△298
うち事業費	221	476	+255
経常利益(△は損失)	△181	41	+222
特別損益	△2	△7	△5
税引前純利益(△は損失)	△183	33	+217
法人税等合計	0	6	+6
純利益(△は損失)	△183	27	+211

貸借対照表

(億円)

	14/3末	14/9末	増減
資産の部合計	33,924	42,422	+8,498
うち現預金・コール	780	1,015	+234
うち有価証券	32,206	40,204	+7,998
負債の部合計	33,440	41,826	+8,385
うち保険契約準備金	32,883	40,981	+8,097
うち責任準備金	32,858	40,944	+8,085
うち危険準備金	1,072	1,159	+86
純資産の部合計	483	596	+112
うち株主資本合計	403	430	+27
資本金	1,175	1,175	-
資本剰余金	675	675	-
利益剰余金	△1,446	△1,419	+27

損益計算書(1)(2)

(百万豪ドル)

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減
経常収益	1,372	1,585	+213
保険料等収入	1,102	1,382	+279
資産運用収益	158	99	△59
その他経常収益	111	104	△6
経常費用	1,323	1,489	+166
保険金等支払金	748	916	+168
責任準備金等繰入額	251	211	△39
資産運用費用	16	18	+2
事業費	264	287	+22
その他経常費用	42	55	+12
経常利益	49	96	+47
法人税等	19	24	+4
純利益	29	71	+42
修正利益 (Underlying profit)	46	78	+32

貸借対照表(1)(2)

(百万豪ドル)

	14/3末	14/9末	増減
資産の部合計	6,086	6,387	+301
現預金	676	853	+177
有価証券	2,852	2,851	△0
有形固定資産	0	0	+0
無形固定資産	1,271	1,251	△20
のれん	791	786	△4
その他の無形固定資産	480	464	△15
再保険貸	72	108	+36
その他資産	1,213	1,321	+108
負債の部合計	4,184	4,413	+229
保険契約準備金	2,960	3,128	+167
再保険借	385	403	+18
その他負債	721	776	+55
繰延税金負債	117	105	△11
純資産の部合計	1,901	1,973	+71
株主資本合計	1,901	1,973	+71
資本金	1,630	1,630	-
利益剰余金	270	342	+71

(1) 連結対象の豪持株会社(TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd)に係る数値

(2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております(修正利益を除く)

	感応度 ⁽¹⁾	含み損益ゼロ水準 ⁽²⁾
国内株式	日経平均株価 1,000円の変動で 1,700億円の増減 (2014年3月末:1,700億円)	日経平均株価 ¥8,700 (2014年3月末:¥9,200)
国内債券	10年国債利回り 10bpの変動で 2,500億円の増減※ (2014年3月末:2,400億円) ※その他有価証券区分:300億円の増減 (2014年3月末:300億円)	10年国債利回り 1.2%※ (2014年3月末:1.2%) ※その他有価証券区分:1.4% (2014年3月末:1.4%)
外国証券	ドル/円 1円の変動で 270億円の増減 (2014年3月末:280億円)	ドル/円 \$1 = ¥93 (2014年3月末:¥89)

(1) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度

(2) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロになる水準

本資料の問い合わせ先
第一生命保険株式会社
経営企画部 IR室
電話:050-3780-6930

免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命保険株式会社(以下「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。